

## 「第102回兵庫県畜産共進会」を開催

令和2年11月3日、「第102回兵庫県畜産共進会」が南あわじ市文化体育館「元気の森ホール」で開催され、県内各地の予選を勝ち抜いた肉牛59頭と種牛42頭の計101頭が競い合いました。

当JA管内からは、肉牛部門6頭、種牛部門2頭が出品され、県立農林水産技術総合センターなどの審査員が、牛の体格や肉付きなどを厳しくチェック。肉牛の部では、谷口隆博さん（宍粟市山崎町）の「知春」号が優秀賞3席、(株)田中牧場（姫路市林田町）の「元太」号が優秀賞8席という輝かしい成績を収められました。

当JAの畜産事業では、子牛と枝肉販売で合計約6億円を受託販売品として取り扱っています（令和2年10月末現在）。今後も、預託事業（繁殖用、肥育用牛の貸し付け）などを活用した和牛の飼養頭数の増加を中心に、生産振興に向けて取り組みます。

なお、西播磨地域の生産者が飼育し、枝肉の格付けが4等級以上の黒毛和牛を「姫路和牛」というブランドで販売しています。また、姫路和牛のうち、但馬牛を素牛とするものは「PREMIUM姫路和牛」と称されます。姫路和牛はJA直売所「旬彩蔵」飾磨・書写・福崎で販売していますので、ぜひご賞味ください。



優秀賞3席「知春」号と谷口さん

## 農作業ひとくちメモ

### 春植えの果菜類に元肥を上手に施す方法は？

長期間収穫できるナスやピーマン、トマト、キュウリなどの果菜類は、健全な根を広い範囲に張らせるのが成功のポイントです。そのためには、植え付けの半月以上前に元肥を入れて、畝を作っておくことが大切です。

果菜類を作るときは、石灰を1㎡当たり100gほどばらまき、30cmぐらいの深さに耕してから元肥を施します。施す位置は野菜の種類ごとに異なり、ナスやピーマン、トマトの根張りは深く、キュウリやメロンなどは浅く広く張る性質があるので、元肥もこれに合う位置に散布することが大切です。いずれの場合も、堆肥を主にして油粕と化成肥料を加え、土と混ぜあわせながら盛り上げて畝を作ります。元肥を早めに入れて土となじませておくことで、根の初期育成を促進して健全に育てることができます。

